

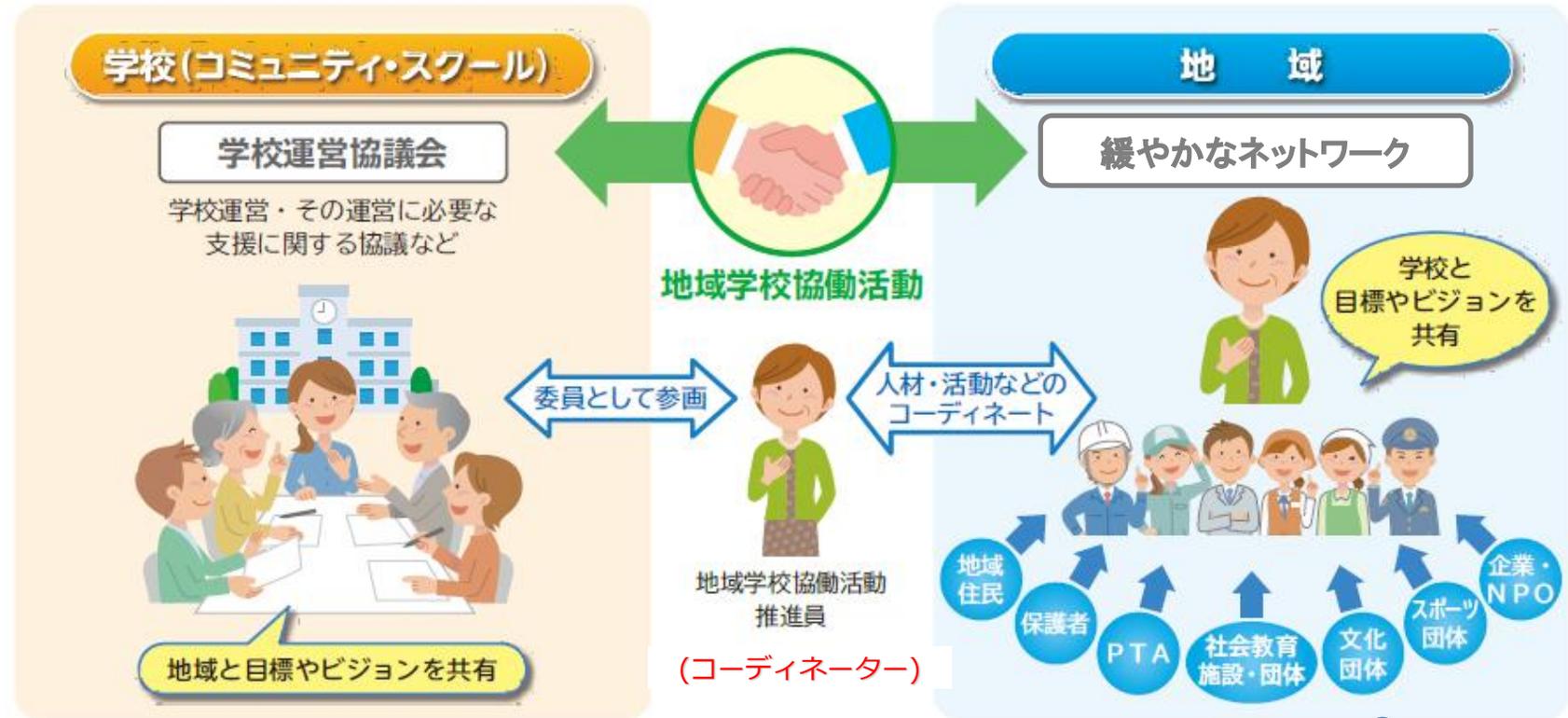
地域学校協働活動の 推進について

高松市教育委員会
教育局 生涯学習課

I 地域学校協働活動とは

定義

幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして実施する活動



学校運営協議会との一体的推進が重要

※R5.4～高松市内全小中学校に学校運営協議会を導入済

(出典：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」、「これからの学校と地域」文部科学省)

社会情勢等の変化により学校・家庭・地域の課題が複雑化・多様化



社会全体で子どもを育てることが重要

Ⅱ 地域学校協働活動推進員(コーディネーター)とは

(1) コーディネーターのイメージ



【コーディネーターの候補者になりうる方々】

PTA関係者、退職した教職員(元校長等)、民生委員・児童委員、おやじの会などの団体等の関係者、コミュニティセンター関係者 など

(2) コーディネーターの役割や資質

👉 コーディネーターに求められる役割

- 地域学校協働活動の企画・立案
- 学校・住民・関係団体との連絡調整
- 地域ボランティアの募集・確保

👉 コーディネーターに求められる資質

- 地域学校協働活動に対する熱意・識見がある
- 地域住民、関係者をよく理解している
- 関係者を巻き込む力がある

Ⅲ モデル期間における本市の取組内容

(1) モデル校の実践支援

モデル校名	指定期間(年度)			委嘱したコーディネーターの所属等
	R6	R7	R8	
1 亀阜小学校	■			おやじの会代表
2 古高松南小学校	■			スクールソーシャルワーカー
3 鬼無小学校	■			元PTA会長
4 川東小学校	■			地域コミュニティ協議会職員
5 木太小学校		■		元PTA会長
6 弦打小学校		■		PTA会長
7 下笠居小学校		■		保護司
8 国分寺北部小学校		■		元小学校長

- 教育委員会からモデル校（小学校）のコーディネーターを1人委嘱
- 活動に対する支援や経費（謝金・消耗品費）を負担
- 学校運営協議会や各種行事に参加し、伴走支援を実施
- コーディネーター間の情報交換会の開催（R7.10.1）や本格実施に向けた制度設計に係るヒアリング



モデル校においては、学校と地域がそれぞれ抱える課題について協議し、解決に向けて連携・協働して取り組む土壌が整いつつある。

事例 1

R7年6月の学校運営協議会で提案された学校支援ボランティアの募集について、コーディネーターの調整を経て迅速に実施され、二学期からの活動実施に至った。

事例 2

複数の地域団体に所属するコーディネーターが、学校と連携した様々な活動ごとに、適切な団体や地域人材との調整を行うことで、活動内容に応じた人的ネットワークが構築された。

Ⅲ モデル期間における本市の取組内容

(2) 研修会の開催及び地域等への周知啓発の実施

ア 研修会の実施状況

令和6年度

- 7月 9日 (火) @高松市役所 13階会議室 参加者 97名
～地域学校協働活動を推進する意義について～
- 11月 14日 (木) @高松市役所 13階会議室 参加者 56名
～コーディネーターの役割と実践事例について～

令和7年度

- 6月 24日 (火) @高松市役所 13階会議室 参加者 59名
～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動～
- 11月 13日 (木) @高松市総合教育センター 参加者 40名
～コーディネーターの役割と活動の実際～



- 参加者の90%以上から、活動に対する理解度について、「とても深まった」「やや深まった」との回答があり、新たな知識や視点の取得、活動への意欲を高める機会となった。
- 一方で、研修前の理解度について、「全く知らない」「詳しくは知らない」との回答が約30%となっており、参加者の固定化の傾向が見られることから、より幅広い立場や年齢層の開拓が求められる。

Ⅲ モデル期間における本市の取組内容

(2) 研修会の開催及び地域等への周知啓発の実施

イ ホームページにモデル校の活動事例紹介

令和6年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	鬼無小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) 元PTA会長

主な活動内容

No	項目	内容
①	「学校・家庭・地域連携室」を設置	校内に、「学校・家庭・地域連携室」を設置し、ボランティアの活動拠点として活用した。以前から使用していた部屋が狭かったことから、以前から使用していた部屋が狭かったことから、PC室を改装し、多目的に使用できるようにした。 
②	学校支援ボランティアの組織的運営	コーディネーターがつなぎ役となって、R5ボランティアを見直し、栽培・昔遊び等、5つの活動（花と緑のボランティア、昼休み昔遊びボランティア、「掲示クリエイター」、学校図書館ボランティア、「コットンフラワー」）を募った。4月下旬に募集の掲載を行い、5月末頃にオリエンテーションを行った。さらに、各ボランティアに担当教員を配置し、指導として新設された地域連携担当教員と連携し、活動を推進した。

令和6年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	亀阜小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) PTA会長 亀阜おやじの会

主な活動内容

No	項目	内容
①	夢集会	「夢 ～未来の亀阜校区に夢をもつ～」と題して、「地域への思い」「人権教育」「キャリア教育」をテーマに、講師を招いて講演を行った。また、コーディネーターが中心となり、学校を聞きながら、講師の人選、当日の司会進行、講師の人選は亀阜地域に所縁のある講師を、地域との連携を深く図ることができた。   

令和6年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	川東小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) コミュニティ協議会

主な活動内容

No	項目	内容
①	昼休みの児童の安全を見守る「見守り隊」の本格実施	学校運営協議会で提案されたものをコミュニティ協議会と協議した結果、川東校区コミュニティ協議会になって、令和6年度から本格的に、小学校の安全を見守る活動を実施した。また、コーディネーターに参画し、学校とボランティア間の連絡を密に取った。 
②	川東文化祭 & 龍つ子フェスティバル	令和4年度から、地域の文化祭と学校の文化祭を同日に開催し、地域住民も学習発表を見ることができるようになった。コーディネーターは、発表に至るまでの準備（手配、連絡係など）を行った。コミュニティ協議会は、取組の趣旨を丁寧に伝え、この取組が地域と学校に理解してもらった。文化祭と参観を児童、保護者、地域の皆さんに、文化祭主催者のコミュニティ協議会と連携して実施した。

令和6年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	古高松南小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) スクールソーシャルワーカー

主な活動内容

No	項目	内容
①	古高松南小学校のサポーター募集	年度当初から、学校行事などにおいて、子どもたちと一緒に活動してくれるボランティア募集に、コーディネーターが中心となって取り組んだ。コーディネーターは、募集チラシの作成、印刷準備、ボランティア登録名簿の作成などを行った。チラシの配布に当たっては、コミュニティセンターを介して全戸を対象とし、2回募集チラシを配布した。結果、以前は学校との関わりがなかった方を含めた13名が登録して新たなネットワークが構築されたほか、宿泊学習のイカダづくり、米作り体験、昼休みの見守り活動・クラブ活動のサポート、家庭科の授業等に、ボランティアを活用した。コーディネーターが、学校側の必要なサポート内容の聞き取りを積極的に行ってくれたことで、学校側の要望も広がってきた。  

Ⅲ モデル期間における本市の取組内容

(3) 市立小学校への個別訪問の実施

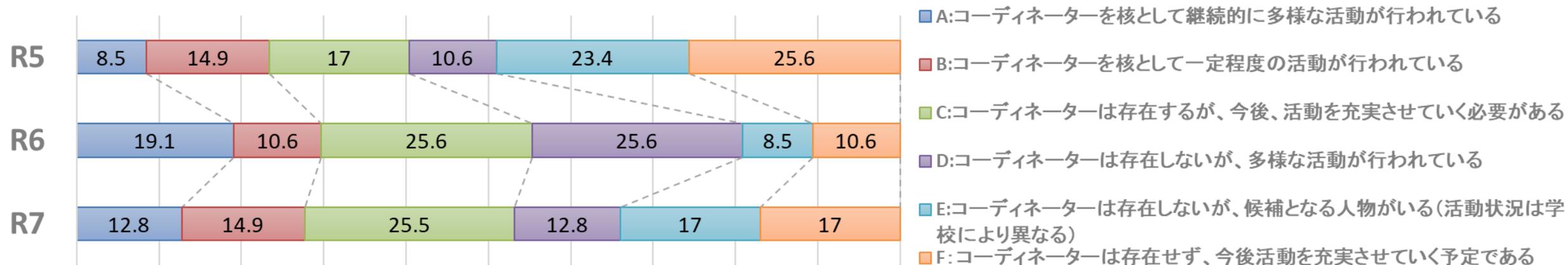
聞き取り調査の概要

調査対象：市立の小学校47（校） 調査時期：令和5～7年（年1回）

調査内容：各校における地域との連携・協働の現状、認識している課題、地域との連携に関する教員の捉え方、支援が必要な項目 など

● コーディネーター配置及び活動状況の変化

（学校への聞き取り調査を基に教育委員会において分類）



■ モデル校を中心に、一定の事業展開が図られている学校や、コーディネーターが不在でも、地域ネットワークを活用して充実した活動を展開している学校も見られる一方で、今後の相当の支援を要すると考えられる学校も存在する。

■ 学校や地域によって、置かれた状況は様々であるため、引き続き、学校訪問や学校運営協議会への参加などの機会を通じて、各校の抱える課題や事業に対する要望等を把握し、段階に応じた支援を実施していく必要がある。

IV モデル事業を通して見えてきた課題と今後の進め方

(1) 令和9年度からの本格実施に向けた実践校の拡大について

学校や地域ごとに、それぞれ個別の状況があり、関係性も様々である。

- ▶ **一律に手法を示すことは困難。** 学校運営協議会の中で地域の状況や課題に応じて熟議し、活動に繋げていただく。
- ▶ **好事例を始めとした情報の積極的な提供や要領等の作成**などにより、事業の普及啓発に努める。
- ▶ 引き続き、学校訪問を行い、コーディネーターを中心とした体制構築に向けて、**それぞれに段階を踏みながら行う学校や地域の取組を伴走的に支援する。**
- ▶ 市内全小学校で一斉に開始を目指すのではなく、**可能なところから、無理なくスタートする。** (R9年度委嘱目標数：12校)

(2) 活動の担い手となる地域人材確保について

持続可能な事業となるよう、現状の活動する人以外にも、いかにネットワークを広げていくか。

- ▶ PTAやおやじの会等の構成員は、様々な社会的立場を持ち他の地域団体構成員でもあることが多く、コーディネーターにふさわしい人材と考えられるため、研修会などの機会を通してコーディネーターの役割や事業の意義を周知し、**コーディネーターを担ってもらう**ことに繋げていく。
- ▶ 多様な層の参加促進や負担軽減に繋がる仕組み、継続的な参加のインセンティブとして、コーディネーターの活動に対する**財政支援の在り方を検討**する。
- ▶ 地域活動の担い手として、多様な人材の参加を促すため、無理なく主体的に参加してもらえよう、「できることを、できる人が、できるときに」というスタイルの定着を図るほか、**若者世代や退職人材などにも研修会への参加を促すなどの支援**を行う。